

# 平成28年度授業改善推進プラン 英語科

## 昨年度の授業改善推進プランの検証

### 取り組みにおける成果と課題

- ・外国人講師との授業で英語に対するやる気の向上やコミュニケーション能力の伸長につながった。
- ・単語テストや補充教室を行い、基礎的な力を定着させるための工夫ができた。
- ・毎日の宿題や予習における家庭学習の習慣化を意識させる工夫が必要である。
- ・基礎学力の低い生徒への個別指導が課題である。

## 英語の内容別結果の分析

内容	1年生	2年生	3年生
聞くこと	○話されている内容を聞き取るうとする意欲は高い。 ○リスニング力は良好である。	○リスニング力は概ね良好な力をつけている。今後も継続的に、ある程度まとまった英文を聞き取る練習を行っていく。	○リスニング力は概ね良好な力をつけている。今後受験に向け文章の要点を聞き取る練習を行う。
読むこと	○簡単で短い文章を理解することは、現段階では概ね良好である。 ○音読に対して抵抗感を示す生徒はあまりいない。大半の生徒が音読に意欲的に取り組んでいる。	○音読の重要性が理解できている生徒が多い。一方で既出事項の復習が不足し、読解が苦手な生徒も見られる。 ○まとまった文章を読み、問題の答えとなる部分を探して理解することができている。	○授業の中で音読を多く取り入れ、発音やリズムなどを強調しており、意識して音読に取り組むことができる。さらにその重要性を深く理解する必要がある。 ○苦手意識をもつ生徒もいるが、まとまった文を読むことに慣れ、ある程度理解することができている。
書くこと	○全体的に丁寧な文字を書いている。定着状況は良好だが、他の技能に比べると劣るので、今後の基礎練習の積み重ねが必要である。	○単語の並べかえ問題が得意であり、定期考査における正答率も高い。 ○単語学習等に苦手意識のある生徒への個別の指導が必要である。 ○表現文や考えて文章を作ることもおおむねできている。	○文を書くことに苦手意識を持つ生徒が多い。目標値は上回っているが、他の技能に比べると低い値である。 ○正しい語彙や文法を概ね身に付けているが、一部の生徒は苦手意識をもっているため、基礎の積み重ねの必要がある。

## 英語の観点別結果の分析

観点	1年生	2年生	3年生
関心・意欲・態度	○英語に対する関心は高い。積極的に英語を使おうとしている。 ○英語を話そうとする意欲・態度は良い。 ○意欲の低い生徒の指導を工夫する必要がある。	○苦手意識のある生徒には、教えあいや学びあいができる環境を増やしたり、関心を引出す導入や雰囲気づくりをしていく。 ○理解の深い生徒の知的好奇心を刺激するため、発展的な内容を組み込んでいる。	○英語学習の重要性を意識している生徒が多く、課題や授業での発言など、積極的に取り組んでいる。 ○学習意欲が低く地道な努力ができない生徒に対して、継続した指導の工夫が必要である。
表現の能力	○話す表現力と書く表現力は、標準程度であるが個人差がある。より演習を取り入れる必要がある。 ○外国人講師を活用し、より実践的な表現活動の場面を設定していく。	○話すことには積極的に活動する生徒が多い。しかし、書くことに苦手意識がある。ワークシート等で授業を行い、自信に繋げていく。 ○更に表現力を身につけるため、外国人講師を活用し、より実践的な表現活動の場面を設定していく必要がある。	○話すことには積極的に活動する生徒が多いが、一部の生徒は苦手意識をもっている。今後外国人講師と連携し実践的な表現力を高める活動を行う必要がある。 ○書く力は全体的に伸びてきているが、場面に応じた英作文では区の平均を下回っているため、英文作成の機会を増やし、経験を積ませる必要がある。
理解の能力	○聞くこと、および読むことへの理解力は標準程度である。 ○普段の授業でも理解力の伸長のため、ピクチャーカードなどの多用を図る。	○聞くこと、および読むことへの理解力は標準程度である。 ○読むことへの理解力の伸長を図るため、日頃の授業内でまとまった英文に触れる機会を増やす。	○聞くことは、概ね良好である。 ○文章読解力は、概ね良好である。さらに長い文章や難解な文章に触れる機会を増やし、様々な文章の形になれる必要がある。
知識・理解	○基本的な語彙や文法の定着は概ね良好である。 ○徐々に異文化理解の機会を増やす。	○語彙力、文法力が定着しきっていないと感じる場面がある。家庭学習を促して定着を図る。 ○異文化理解への関心を高めるため、導入の場面などで情報を提供していく。	○語彙・基礎文法は、個人差はあるものの概ね定着している。 ○教科書の題材で導入の場面などで異文化情報を提供し、考えを深めさせる工夫をする。

英語の課題と具体的な授業の改善策

学年	課題	具体的な授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今後難易度が増していく語彙や文法項目を、スムーズに定着させていけるかが課題である。</li> <li>○基礎学力の低い生徒が参加できるような授業の工夫が課題である。</li> <li>○生徒の達成状況に合わせた指導の充実が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習した新出単語や文法を、家庭学習などに取り入れ復習をする習慣をより定着させる。また、外国人講師を効果的に活用することで、実際に使う場面を教科書以外で設定する。それによりやる気の向上を図り、学習項目の定着につなげていく。</li> <li>○ビンゴや小テストを実施したり、補充学習を取り入れたりと、個に応じた指導を行う。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎学力の定着度を向上させるために、家庭学習や復習を取り入れた導入など工夫が課題である。</li> <li>○基礎の部分を押さえた上での発展学習をいかに展開するかが課題ある。</li> <li>○基礎学力の低い生徒への指導が課題である。</li> <li>○書くことへの苦手意識をなくす工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎回の授業で復習となる内容の宿題を課し、家庭学習の習慣化と確実な学習内容の定着を図る。</li> <li>○小テストや学期ごとのスペリングコンテストを実施して、基礎学力の定着を図る。</li> <li>○スピーチやゲーム的活動を通して、意欲的にコミュニケーションをとるような授業を展開し、書くことに積極的に取り組めるよう工夫する。</li> <li>○補充学習を取り入れ個に応じた指導を行う。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習意欲を高める授業になるように工夫する。</li> <li>○基礎基本の定着はもちろんだが、それを用いて発展的な内容に取り組む。</li> <li>○基礎学力の低い生徒への個別指導が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○継続して基礎基本のが学習の定着を図るため、定期的なスペリングコンテストなどを行う。また、カードや絵、電子黒板などを使用したわかりやすい説明を心がけ、意欲的に取り組めるようにする。</li> <li>○毎時間宿題で予習復習を行う課題を課し、目的意識を持って授業に参加することを意識させる。1, 2年の復習をできる習慣を日ごろから身に付けさせる。また、音読や暗唱、スピーチ等を行い、つまづきを意識させることで自らの学習意欲に結びつけ入試に備えた学習ができるように工夫する。</li> </ul>